

# PTA会報

第85号

文化祭での保護者模擬店(9/3)



1頁	表紙
2頁	「PTA会長あいさつ」
3頁	「島根高P連だより」より (三刀屋高校のPTA活動紹介)
4頁	「平成28年度の活動」
5頁	「島根県高P連研修会」
6頁	「特集 社会問題化する奨学金の返済遅延」
7頁	「高P連全国大会」
8頁	「高P連中国・四国地区大会」
9頁	「交流の場としてのPTA活動」
10頁	「健康で、そして安心・安全な生活のために」
11頁	「特集 高校魅力化事業」
12頁	「忘れていませんか？高校生総合保障制度」
13頁	「平成28年度の課外活動(主な上位成績)」
14頁	「保護者の言葉」
15頁	「卒業生の言葉」
16頁	「総合学科全国大会を終えて」
17頁	「本校総合学科10年の振り返り」
18頁	「三刀屋高校で身につけるべき力とは」
19頁	「贈る言葉に代えて」
20頁	「編集後記」

島根県立三刀屋高等学校PTA

題字：長羅典子先生(書道講師)



近年の P T A 総会は、5月中旬の1学期中間試験中の土曜日（出校日）の午後に開催しております。写真は昨年5月14日の P T A 総会。

今年度の支部会員数	評議員数
加茂・大東	46
木次	111
奥出雲	37
吉田	15
掛合・飯南	38
三刀屋	122
その他	17
学校	3

（平成28年5月1日現在）

会 長	奥井英孝(木次)
副会長	陰山広和(三刀屋)
	高野耕治(木次)
	落合永美(掛合)
	恩田佳雄(校長)
監 事	岡田志保(木次)
	名原好昭(三刀屋)
幹 事	大塚 昭(事務長)
書 記	(総務部長)
	(総務副部長)

P T A 会長あいさつ



奥井 英孝

生徒たちの高校生活のサポートのために

高校の行事や P T A 活動に対する皆さんのイメージはどうでしょうか。小学校、中学校の義務教育の頃と比べて遠い存在になっていませんか。

三刀屋高校 P T A は、役員はもちろん高校の先生方と一緒に、より生徒たちが活動しやすい学校環境をつくっていくことを目標に、各支部をベースにしながら事業は少ないながらも活動を続けています。

本年も、春の総会、支部連絡会をはじめ、研修会への参加や、登下校時の交通指導、夏祭りでの巡回指導、学園祭での模擬店（カレーライスとフランクフルト）の出店、そして三刀屋高校創立90周年を契機として始まった学園祭前の学校周辺の環境整備活動などを行ってきました。その際には、多くの皆様のご参加をいただき、大変ありがとうございました。

の高校生活に対してのサポートをされていることと思います。P T A 活動は、その延長線にあるもので、とりたてて変わった活動ではありません。生徒たちの安全で安心な高校生活のためのサポートで、高校での様子を垣間見ることで、きる数少ない機会だと感じています。

今年、全国高校 P T A 連合会の全国大会へ参加しました。テーマは「再発見！愛！今こそ信じよう愛の絆」で、全国の様々な高校での P T A 活動や保護者の取り組みが発表されました。親子だけでなく、学校や地域との絆（連携）を深めることの大切さを感じました。基調講演では、「基本的な生活習慣の徹底化」「ボランティア活動参加の方向付け」「褒めて叱って育てる」ことの必要性が提起され、

日頃、子どもと接する親の姿勢が大切であることに気付かされました。

残念ながら、高等教育機関などが少ない島根県においては、卒業する多くの生徒が、進学や就職を契機として親元を離れることになりました。三刀屋高校に通う3年間は、ともすると子どもさんと毎日触れ合うことができる貴重な期間とも言えると思います。我が家も、三刀屋高校を卒業した子ども2人が、今は自宅を離れて生活をしています。今思えば、仕事にかまけてそんなに高校の P T A 活動や行事に参加していなかった当時を、少しもつたいなかったと反省しています。高校生という多感な時期は、親子関係はもとより取り巻く環境も、今後の子どもの成長に大きく影響を与えます。だからこそ、将来の選択をすることとなる高校の3年間、子どもと一緒に親も成長して行ければと思っています。

生徒たちが、様々なことにチャレンジし、将来に羽ばたくための基礎づくりとなる三刀屋高校での3年間を、P T A 活動を通して支援していくことが親の役割だと考えます。保護者の皆様には、引き続き P T A 活動に対してご理解をいただき、積極的にご参加いただきますようお願いいたします。



『島根高P連だより』第50号（7月発行）に、本校PTA活動の概要紹介として、奥井英孝PTA会長に寄稿していただきました。

7月

三刀屋高等学校のPTA役員は、会長1名、副会長4名（うち1名は校長）、理事9名（うち1名は教頭）、監事2名、幹事1名（事務長）、書記2名（教諭）、そして6つの地区から選出された合計26名の評議員で構成されています。この他に、6つの地区から選出された合計27名を委員とする生活指導委員会と各クラスから2名ずつ選出された合計28名を委員とする進路指導委員会が活動しています。

5月に総会を、4月と2月に評議員会を開催している他、7月には6地区で地区PTAを実施しています。

生活指導委員会は、7月に木次地区と三刀屋地区でパトロールを行い、8月の学園祭において文化祭の二日目にPTA模擬店を出し、カレーライスやフランクフルトを提供しています。また九月には秋の交通安全週間街頭指導を教員や係の生徒と一緒に、10月から11月にかけて下校パトロールも行っています。

進路指導委員会は、生徒の学力保障・進路保

障の観点から、基礎学力の向上と学習の習慣化を図るため、土曜日補習を主催し、教員に補習授業を依頼しています。また、模擬試験を実施したり、生徒の自学自習の場所を提供したりするために、休日（年間30日）に学校を開放し教員に監督を依頼しています。平成27年11月16日（月・代休日）には、希望する生徒も含めて、岡山県の大学を訪問し、平日の大学の様子を見学しました。

三刀屋高等学校のPTAには、広報委員会に相当する組織はなく、年間2回発行するPTA会報は、教員が取りまとめていましたが、今年度からは保護者にも編集に関わってもらい、保護者主体の会誌にしようと考えています。

8月には有志を募り、PTA環境美化ボランティア活動を実施し、校地内の草刈りなどをして、生徒が美しい環境の中で学業に励んだり、学園祭を迎えたりすることができるようにしています。

なお、平成27年8月には、会長と副会長が、雲南市政策企画部にバスダイヤの改善について陳情し、生徒が登下校する際の利便性を高めてもらいました。さらに、平成28年2月に、会長と副会長が、島根県教育委員会に体育館の新規整備と寄宿舎の改修について陳情しました。

PTAの活動を通して、我が子の成長を見守りながら、ともに成長していけたらよいと考えています。

7月と12月の年2回発行の「島根高P連だより」は、島根県高等学校PTA連合会のホームページからダウンロードできます。

平成28年度の活動

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
14日	22日	21日	10日	7日	24日	12日	25日	15日	11日	14日	27日
1日	21日		3日	22日	7日	3日	21日	12日	上旬	14日	26日
第2回PTA進路指導委員会	第2回PTA評議員会兼理事会	〔学校評価保護者回答分〕	土曜補習開始（PTA主催 2/11） 〔保護者面談〕	鳥根県幼・小中・高・特別支援学校PTA合同研修会（江津市）	PTA大学キャンパスツアー（岡山県） 〔1年保護者進路ガイダンス〕	秋の交通安全週間街頭指導 〔2年保護者進路ガイダンス〕	PTA環境美化ボランティア活動 第66回全国高P連千葉大会（26日、千葉市）	地区PTA（6地区） 第2回PTA生活指導委員会兼人権・同和教育推進委員会 第58回中国・四国地区高P連香川大会（高松市） PTA木次地区パトロール PTA三刀屋地区パトロール 〔保護者面談〕	島根県高P連総会・研修会（松江市）	PTA総会 第1回PTA生活指導委員会兼人権・同和教育推進委員会 熊本地震被災地への募金	PTA役員選出 PTA会計監査 第1回PTA進路指導委員会 第1回PTA評議員会兼理事会

# 「有権者」でなくても、全員が「主権者」です 家庭も大切な主権者教育の場です

## 島根県高P連研修会

島根県高P連総会併催 「6月11日(土)、サンラポーむらくも」

6/11

### 『主権者教育と政治的活動について』

講師 島根県教育庁教育指導課  
指導主事 田村康雄氏  
三島和人氏



18歳以上に選挙権が引き下げられて最初の国政選挙となった7月の参議院議員選挙の前に、6月11日の高P連総会に合わせ右の題で研修会が開催されました。

本校からは奥井会長と恩田校長の2名が参加し、他校のPTA役員や管理職等約70名を前に、講師の島根県教育庁教育指導課指導主事からは、改正公職選挙法成立に至った

経緯や、文部科学省や県教委がすすめる主権者教育の考えについて説明がありました。当日の研修会での講話の概略については、1学期末に配布された『島根高P連だより』第50号をご覧ください(その末尾を、左枠内に抜粋して掲載させていただきます)。

各種報道によると、高校での「主権者教育」が選挙制度の説明や模擬投票の実施、さ

今回の選挙に限らず、これからも同じ学校の中で、選挙権を有する生徒とそうでない生徒が混在することになります。しかし、生徒たちは「有権者」でなくても全員が「主権者」です。ある調査によると、周囲の大人が投票に行くかどうかで、子どもの投票意欲は大きく変わるという結果も出ています。学校における主権者教育と同時に、**家庭も大切な主権者教育の場です。**今回の改正は、私たち大人もあらためて「主権者」としての自覚と責務について再考する機会ともいえるのではないのでしょうか。

(『島根高P連だより』第50号より抜粋)

Q 次都道府県のうち、昨年7月の参議院議員選挙における「19歳」の投票率が最も高かったのはどこでしょうか?

北海道 東京都 大阪府 島根県

A 日本一投票率の高い、島根県と答えたいところですが、正解は東京都です。左下の表の雲南市の18歳、19歳の投票率はほぼ全国平均で、島根県全体の18歳、19歳の投票率はともにも全国平均を約6ポイントも下回りました。その理由の一つは、高校を卒業して県外の上級学校に進学する学生の多くが住民票を移動せず、わざわざ帰郷してまで投票することをためらうためです。学生世代の若者の特に地方での投票率が伸び悩む大きな理由です。選挙に関心がないわけでもないのかもしれませんが…。(事務局記)

らには公職選挙法に抵触する事例紹介が中心だった感があります。選挙違反をしないようにするための注意喚起に重点を置く指導が多かったのではないのでしょうか。

講話の中で触れられたように、「有権者でなくても全員が主権者」です。本来的には、どの候補者に(どの政党に)投票すべきかを判断する力を養い、選挙の際だけで

予想外に低い?  
実はこんな理由も

投票率  
第24回参議院議員選挙  
平成28年7月10日 (%)

	雲南市	島根県
18歳	51.4	45.0
19歳	38.4	32.4
全体	70.6	62.2

昨年7月実施の選挙での「18歳」は、高3生より一学年上の昨年すでに高校を卒業した者を多く含んでいます。

### 三高での主権者教育 5/17

5月17日に雲南市総務部選挙・法務グループから講師をお招きし、3年生が選挙全般に係る説明を受けました。公民科の授業で選挙制度について学んでいます。今回の講座では「選挙クイズ」等も盛り込んで、選挙をより身近に感じられるように講話していただきました。



5/17、総合学科棟大講義室で

日本学生支援機構HPの「奨学金貸与・返還シミュレーション」を検索！



# 特集

## 社会問題化する奨学金の返済遅延

### 月々の返済シミュレーション確認のすすめ！

学生二人に一人が利用する日本学生支援機構

大卒者の3割が年収3百万以下

増える奨学金破産や退学！益々重要な大学選び

自己破産しても終わらない！

連帯保証人にかぶさる負担

第一種奨学金 無利子（4年制の例 / 貸与月数48ヶ月）

	進学形態	貸与月額	貸与総額	返還月額	返還回数（年数）
国公立	自宅	45,000	2160,000	12,857	168回（14年）
	自宅外	51,000	2448,000	13,600	180回（15年）
私立	自宅	54,000	2592,000	14,400	180回（15年）
	自宅外	64,000	3072,000	14,222	216回（18年）
国公私	自宅 自宅外	30,000	1440,000	9,230	156回（13年）

第二種奨学金 有利子（4年制の例 / 貸与月数48ヶ月）  
月額3万、5万、8万、10万、12万円から選択します

貸与月額	貸与総額	年利(3%が上限)	返還総額	返還月額	返還年数
3万	144万	0.5%の場合	1,491,061	9,557	13年
		1.0%の場合	1,543,214	9,892	
5万	240万	紙面の都合により省略			15年
8万	384万				20年
10万	480万				20年
12万	576万	上限3%の場合	7,751,445	32,297	20年

### 【機関保障制度】もあります

連帯保証人までもが苦慮する結果を避けるため、「機関保障制度」があります。延滞した場合は、保証機関が本人に代わって奨学金の返済を行います。その後、保証機関からの請求により返済しなくてはなりません。詳細は日本学生支援機構のHPをご覧ください。

算できます。それが、月々の返済が可能かどうかの返済シミュレーションをお勧めしたいと思います。日本学生支援機構のHP上で各種条件を入力すると自動計算できます。

### < 参考 >

国立大学 入学金 282,000円 授業料535,800円 初年度納付金合計 817,800円  
一ヶ月の生活費（自宅外生の場合） 116,960円

（全国大学生生活協同組合連合会「学生の消費生活に関する実態調査2014年10月実施」より）

国は初めて、返還義務のない給付型奨学金制度を設けることを発表しました。枠は2万人と狭き門ではありませんが朗報であり、貸与型奨学金の返済額も所得に應じるべきとの議論もあります。より良い奨学金制度の拡充を期待したいと思います。

日本学生支援機構の奨学金制度については本校の「進路の手引き」にも概略を詳しく載せています。国は初めて、返還義務のない給付型奨学金制度を設けることを発表しました。枠は2万人と狭き門ではありませんが朗報であり、貸与型奨学金の返済額も所得に應じるべきとの議論もあります。より良い奨学金制度の拡充を期待したいと思います。

そのような事態を生むのは返済期間の長さではなく、月々の返済額に大きな要因があると言われます。大卒者の3割が年収3百万円以下の現況で、月1万円の返済も滞る事例も珍しくないようです。第一種奨学金に採用されず有利子の第二種奨学金での採用となっても、現在の金利状況が続けば、返還総額がさほど膨れ上がる心配はありません。平成27年3月現在の適用金利は、利率固定方式で年0.63%、利率見直し方式で年0.10%の低利率ですが、月々の返済が可能かどうかの返済シミュレーションをお勧めしたいと思います。日本学生支援機構のHP上で各種条件を入力すると自動計算できます。

奨学金問題については高P連研修会のテーマになったことにはないようですが、PTA組織が結束し、その全国的なつながりを持って奨学金制度の改善・拡充を求める活動を推進すべきではないでしょうか。返済が滞ることも問題ですが、そもそも問題なのは、能力がありながら将来の返済の見通しが立たず、奨学金の申請と進学を断念せざるを得ない若者がいる現状です。高P連組織がもっと大きな声を上げる時ではないでしょうか。

全国高P連HPから会報をダウンロードできます



千葉大会特設ページ (<http://2016chibatikai.com/>) もご覧下さい

- 研究発表 進路選択と親子のコミュニケーション
- 第1分科会 学校教育とPTA
- 第2分科会 進路指導とPTA
- 第3分科会 生活指導とPTA
- 第4分科会 家庭教育とPTA
- 特別第1分科会 学校の危機管理とPTA
- 特別第2分科会 情報機器と学校教育

今年度の全国高等学校PTA連合会大会は、8月25日から26日に千葉市の幕張メッセ他で開催され、三刀屋高校からは、奥井PTA会長と私が参加しました。この大会に初めて参加した私にとつて、大会の規模の大きさに圧倒されることばかりでした。

参加者は全国から10,325名ということで、開会式などが行われた幕張イベントホールが満員

開会式では、来賓として、松野博一文科科学大臣、森田健作千葉

大変なことであると感じました。

開会式が始まる前から、これだけの規模の大会を開催すること自体、

生きと活躍する姿が見られました。

クシヨンが行われ、高校生が生き

部や箏曲部などにより歓迎アトラ

は、両会場で地元の高校の吹奏楽

会場に映像配信方式で開会式が行

を収容しきれず、国際展示場を副

になつていました。全ての参加者

『再発見！愛！』 ～今こそ信じよう愛の絆～

今田寿夫（総務部長）

# 高P連全国大会（千葉県）

幕張メッセ他（千葉市）

8/25～26

県知事、熊谷俊人千葉市長が、教育についての熱い思いを含め、祝辞を述べられました。PTAの大会にこのような方々が臨席されるのかと、大会の規模の大きさを、改めて痛感しました。

優良PTAなどの表彰があった後で、基調講演がありました。

「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」という演題で千葉敬愛短期大学の明石要一学長が講演されました。高校生の間に体験活動を始め様々な格差が広がっていること、今こそPTAの果たす役割が重要であることなどを分かりやすく話していただきました。

大会テーマソングを作った高校生の歌唱を聴きながら昼食を食べた後午後は、7つの分科会に分かれての参加となりました。私は、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張のホールでの分科会に参加しました。テーマは「学校の危機管理とPTA」でした。

2日目は、女優の市原悦子さんが「私の選んだ女優の道」と題して記念講演をされ、分科会報告、閉会式で大会の幕を閉じました。

来年度の大会は静岡県で開催されます。平成32年度は鳥根県での開催が決定しています。

# 高P連中国・四国地区大会（香川県）

7/15

香川県民ホール（高松市）

58回目を迎えた中国・四国地区大会が7月に香川県高松市で開催され、9県から約1,800名、内島根県からは96名、本校からは陰山副会長、落合副会長、高橋教

頭の3名が出席しました。

午前の開会行事、香川出身の宮本亜門氏の講演に続き、午後は岡山県・高知県・香川県の計3校のPTA会長からの活動報告をもとに研究協議が行われました。いずれの学校でも、単に保護者が集まっ

ての活動というよりは、地域と密着した裾野の広い活動をすすめているという点で共通していました。

大会概要は、香川県高P連HPに掲載されている「香川県高P連だより」第5号をご参照ください。



# 交流の場としてのPTA活動

大人も楽しみながら繋がりませんか！  
交流の場・ボランティアの場・研修の場 etc.

## PTA環境美化ボランティア活動

(8/21、保護者参加44名)

一昨年の9月、創立90周年記念式典を前に敷地内の除草作業にご協力を頂いたことをきっかけに、昨年度からは学園祭前の8月下旬にPTA環境美化ボランティア活動として位置づけられました。この時期は、小中学校の同様な活動と重なりますが、無理のない範囲で今後もご協力を願えればと思います。

## 文化祭/保護者模擬店

(9/3、保護者参加37名)

例年文化祭2日目に、学校のピロティー横のテントでカレーライスとフランクフルトを提供していただいております。

今年は仕込みもスムーズに、1年生の家庭クラブ員・交通委員は販売を手伝い、昨年より早い時間に完売となりました。ご協力、あり



学園祭前のPTA環境美化ボランティア活動  
生徒の参加者が増えることも期待します(8/21)。



文化祭2日目の保護者模擬店。生徒も販売に協力(9/3)。



平日の大学を保護者、生徒23名が体感したPTAキャンパスツアー(11/7)。



人、人、人で埋め尽くされた体育祭の保護者等テント応援席。PTA行事以外の場面で、さまざまな形で保護者や地域の皆様のご支援を頂いております。

がとうございました。

## PTAキャンパスツアー

(11/7、保護者・生徒計23名)

高校の代休日に設定し、大学の平日のキャンパスライフを体感するプログラムに、今年度は生徒19名、保護者4名の参加を得て、岡山大学と岡山理科大学(ともに岡山市)を訪問しました。休日の通常のオープンキャンパスと異なり、大学の普段の姿に接する好機です。岡山大学では、本校卒業生からの説明も聞くことができました。

## 保護者OBとしての声

年間のPTA諸行事の中には、この頁で紹介される例のように、保護者どうしや保護者と生徒・教職員が交流する場面もありますが、そのような交流活動の拠り所という意識を持ってPTA活動のすそ野を広げてはいかがでしょうか。現在の生徒は小中学校でのキャリア教育・ふるさと学習等により、地域の大人と交流する機会が以前より多くなっています。生徒にとつて身近な保護者集団との交流も、もっと密になって然るべきだと思います。一緒に活動できる新しい場を、フランクにあれこれと考えること自体も楽しいと思います。単に会合を増やそうというわけではありません。例えば「サラーマン川柳」ならぬ「PTA川柳」や「PTAレッツ連歌」を募集するのはいかがでしょうか。皆で同じことに関心を寄せる集団作

りを通じて、PTAとして取り組むべき検討課題についても意見を出しやすい雰囲気が出つのではないのでしょうか。

キャリア教育の一層の充実を図ろうとする今、PTA組織が、子どもたちと地域社会を結びコミュニケーションとして存在感を増すべき時ではないでしょうか。

健康で、そして安心・安全な生活のために

【今年度の関連する取組の例】

4月	人権に関する意識調査	木次地区・三刀屋地区 パトロール
(新入生)	各種検診	8月 PTA環境美化
	生徒会あいさつ運動	ボランティア活動
	交通安全街頭指導	9月 防犯・交通安全講話
	禁煙・飲酒防止	10月 交通安全街頭指導
	キャンペーン協力	10月 生徒会あいさつ運動
5月	教職員救急救命法講習会	11月 下校パトロール
	世界禁煙デー啓発市民活動	心と性に関する講演会
	情報モラル講演会	(2年)
	部活動ケガ予防講習会	12月 第2回避難訓練
	心と性に関する講演会	人権に関する意識調査
6月	自転車施設点検(年間数回)	1月 生徒会あいさつ運動
	第1回避難訓練	2月 防災教育講演会
7月	救急救命法講習会	通年 「健康観察」毎日朝礼時
	(1年、2年)	「学校安全点検」
		「スクールカウンセラー来校」



10月下校パトロール



9/13 防犯・交通安全講話



5/18 情報モラル講演会



5/21 心と性に関する講演会(1年)



5/13 世界禁煙デーを前にした市民啓発活動



4/19 禁煙・飲酒防止キャンペーンに協力

また、在学中だけでなく将来にわたって健康で安心・安全な生活が営めるよう、通常の授業以外にもさまざまな啓発活動が展開されています(上記行事)。

ただ、そうした啓発活動(学習機会)



7/19救急救命法(AED)講習会(1・2年)



5/24部活動ケガ予防講習会

生徒が一日の半分近くを過ごす学校は、安全で安心できる場所ではなくてはなりません。PTA活動としても直接的にサポートする場面として、下校時の「交通安全街頭指導」や木次・三刀屋地区の夏祭りでの「パトロール」等があります。

は学校だけで提供されるべきものでもありません。2月には、昨年に続いて松江气象台から講師をお招きして「防災教育講演会」を実施しましたが、いざという時への備えを、ご家族でも話しあう機会になればとも思います。災害は登下校時にも起こり得るものであり、備えあれば憂いなし、いざという時の対応をシミュレーションしてみてはいかがでしょうか。

# 特集

## 高校魅力化事業 8校から19校に拡大



### 新年度から三刀屋高校も

2011年度に始まり、これまで中山間地域・離島の県立高校8校で展開されてきた「魅力化・活性化事業」が、平成29年度には三刀屋高校・大東高校を含む計19校に拡大されます。あわせて、中山間地域・離島対策の柱と位置づけ、小中学校の教育魅力化には松江市と出雲市を除く17市町村を対象に交付金も創設されます。小中高の「魅力化」を一体的に図る担当者を各市町村に配置し、移住・定住策にもつなぐ構想です。

従来からの事業実施 8校
横田、飯南、吉賀、津和野、隠岐島前、島根中央、矢上、隠岐
追加の 11校
浜田水産、隠岐水産、安来、情報科学、大東、三刀屋、邇摩、江津、江津工業、浜田商業、益田翔陽

出雲町の横田高校もすでに事業を継続中で、先進事例に多いのは、次の3点ではないでしょうか。

寄宿舎充実を含む通学支援

地域との交流を大切に

キャリア教育の充実

公営塾設置による学習支援

隠岐島前高校の実践例はテレビや新聞等で見聞きすることもあつたかもしれませんが、ここでは近年から事業に取り組んだ津和野高校の現状を簡単に紹介します。

山口県境に位置する津和野高校は、平成25年度までの約10年間で入学者数が三分の一まで減少しましたが、平成26年度、27年度とV字回復しました。

背景にあるのが、「津和野高校魅力化プロジェクト」と呼ばれる、津和野高校に対する津和野町の厚い支援です。津和野高校には、津和野町が雇用する9名ものスタッフが常駐（併設の町営塾含む）し、高校のキャリア教育支援、広報、地域連携、学習支援などの領域で活動しています。

（同校HPをもとに構成）

どの学校もどの地域も必死です。学校だけの問題ではなく、地域の生き残りをかけて取り組むべき本事業であり、先進校と同じことをやれば良いわけでもありません。時代はめまぐるしく変わり、仮に一時の成功体験に安穩とすれば、却つてその先の改革を阻害することもあるかもしれません。

本校は平成16年に総合学科1期生を迎え、平成25年2月には「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰の栄に輝きましたが、当初の十年間もそれ以後も、常に取り組みの成果を検証しつつ、社会状況の変化にも対応すべく教育活動の見直しを図ってきました。大学入試のあり方も戦後最大の大きな変化を迎えようとしています。家庭、学校、地域がつながり、生徒のより良き自己実現につながるよう、本事業が有機的に機能しなくてはなりません。今後一層のご協力をよろしく願います。

雲南市・飯南町・奥出雲町の学校間で、少ない生徒の奪い合いをするわけではありません。雲南圏域は一体であり、雲南圏域全体のコンセプトも共有されるべきでしょう。つながるっ三高！つながるっ雲南！



## 忘れていませんか？

### 高校生総合保障制度（任意加入）

契約内容や、加入していること自体をお忘れの方はいらっしやいませんか？

ご加入の方の多くは、高校入学直前に「島根県高等学校PTA連合会『高校生総合保障制度』のご案内」と記された封筒の案内文書でご検討いただき、申し込んでいただきました。

島根県高等学校PTA連合会(高P連)が推薦する制度ですが、あくまでも加入は任意です。また、加入後の保険金支払請求は加入者個人の責任で行っていただきます。個人情報でもあり、未請求のままであることを学校側から通知することはありませんのでご注意ください。制度に加入していることを忘れて、支払請求を忘れての方はいらっしやいませんか。過去2年まで遡って請求でき、高校卒業後の請求も可能です。

不明な場合には、下記の取扱代理店までお問い合わせください。

取扱代理店 有限会社メイジ

電話：0120-001-230

平成28年度の課外活動(主な上位成績)

上位大会に繋がる県大会での好成績、中国大会以上出場分を中心に掲載しております。各部の大会結果等の詳細については、生徒会誌『雲南』をご参照ください。

ご声援ありがとうございました

【陸上競技部】

島根県高校総体

女子砲丸投 高野彩香(1年) 5位

男子走幅跳 山田 幹(3年) 8位

中国高校選手権出場(岡山市)

女子砲丸投 高野彩香(1年)

島根県高校新人陸上

男子八百m 須山泰成(2年) 3位

1年男子五千m 名原優太(1年) 2位

女子砲丸投 高野彩香(1年) 2位

中国高校新人陸上出場(浜山)

男子八百m 須山泰成(2年)

女子砲丸投 高野彩香(1年)

【野球部】

春季出雲地区大会 2位

【女子ソフトテニス部】

島根県高校新人大会

団体 ベスト8(6年ぶり)

個人 菅田野衣・中林楓香(2年) ベスト32

若槻真依・土谷美蘭(1年) ベスト32

島根県高校インドア選手権大会出場

菅田野衣・中林楓香(2年) ベスト8

若槻真依・土谷美蘭(1年)

島根県インドア選手権大会出場

菅田野衣・中林楓香(2年)

【男子バスケットボール部】

島根県高校総体 ベスト8

中国高校選手権島根県予選 1位

決勝 三刀屋 3安来

中国高校選手権大会出場(岡山県)

1回戦 三刀屋0 呉宮原(広島)

島根県高校総体 1位(2年ぶり28回目)

決勝 三刀屋 2安来

全国高校総体代表決定戦

三刀屋9 徳山(山口)

国民体育大会中国ブロック予選(岡山県)

少年男子の部 2位

決勝 島根選抜0 広島選抜

島根県高校新人大会 1位(2年連続17度目)

決勝 三刀屋 0安来

3月の全国選抜大会出場権獲得

中国高校新人大会(島根県)

1回戦 三刀屋2 東岡山工業

中国高校選手権島根県予選 1位

決勝 三刀屋 4松江商業

中国高校選手権大会出場(岡山県) ベスト8

1回戦 三刀屋 0下関短期大学付属

2回戦 三刀屋0 倉敷商業

島根県高校総体 1位(5年連続30回目)

決勝 三刀屋 3大東

全国高校総体出場(尾道市)

1回戦 三刀屋 3文徳(熊本)

2回戦 三刀屋0 日出(東京)

島根県高校新人大会 1位(8年連続14度目)

決勝 三刀屋 1浜田商業

3月の全国選抜大会出場権獲得

中国高校新人大会

1回戦 三刀屋4 中村女子

【剣道部】

中国高校選手権出場(岡山市)

男子個人 安部勝久(3年) 2回戦進出

島根県高校総体

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝(2年) 2位

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝(2年) 3位

中国高校選手権出場(岡山市)

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝

島根県高校新人大会

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝 3位

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝 5位

中国高校新人大会出場(岡山市)

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝 8位

男子二百m平泳ぎ 吉川航輝 9位

【少林寺拳法(社会体育)】

全国高校総体出場(美作市)

女子単独自由演武 門脇宥紀菜(3年)

【写真部】

全国高校総合文化祭出品(広島市)

小池ななみ(3年)

島根県高校写真展

松崎愛己(1年) 奨励賞

【ESS部】

島根県高校英語スピーチコンテスト

白名真子(2年) 2位

中国高校英語スピーチコンテスト出場(広島市)

白名真子(2年)

【美術部】

全国高校総合文化祭出品(広島市)

門脇宥紀菜(3年)

全国高校漫画選手権本戦出場(高知市)

高野寛子・茂富楓・金築由依(3年)

【書道部】

全国高校総合文化祭出品(広島市)

黒目麻友(3年)

島根県高校書道展

渡部真夕(2年) 優秀賞

【演劇部】

島根県高校演劇発表大会

『笛男(フエオトコ)』 最優秀賞

中国高校演劇発表大会(総社市、5年ぶり出場)

11校中、最優秀賞に続く優秀賞(3校)

【放送部】

総文祭放送部門島根県大会

アナウンス部門 高見ひのめ 5位

中国高校放送コンテスト(広島市)

アナウンス部門 高見ひのめ 10位

【パソコン同好会】

スモウルビー・プログラミング甲子園

3月の決勝大会出場権獲得 周藤匠(2年)

【その他の課外活動】

うんなんディベート選手権大会 1位

高橋和輝・定本大地

西村風輝・高野寛子(いずれも3年)

全国高校生 M PROJECT AWARD 関西大会

小村優希(1年)・小田千尋(2年)

53組がエントリーする中で上位7組に入り、

3月の東京での全国サミット出場権獲得

保護者の言葉

「PTA役員として  
保護者として」

2年生保護者 落合 永美

昨年の今頃、三刀屋高校の女性の副会長を掛合地区から選出するとのことで白羽の矢が私に当たりました。昨年度は仕事の都合で学校行事にあまり参加ができなかったので不安ではありましたが、皆様の協力のおかげでなんとか今年度の活動が終わるうとしていきます。

PTAの役割は学校と家庭が協力し合い子供たちの学習環境を支援することです。PTAの役員になったことで部活動の用事以外でも役員会や研修会に参加する回数が増えました。きめ細やかな進路指導、交通安全の見守り、文化祭



保護者集団として最も繋がりが深いのが部活動の保護者会でしょうか。強力なサポーターです。

での模擬店など、子供たちを支えている保護者や先生方の活動内容を具体的に知ることができました。特に、毎年行われているカレーライスとフランクフルトの模擬店では、いかに効率的に、かつ、美味しく作れるのかというお母さんたちのこだわりがあるのがわかりました。親子共に楽しめるこの企画は、今後も継続していつて欲しいと思います。

また、夏に高松市で行われた研修では、他校のPTA活動を知ることができました。地域と学校が一体となりボランティア活動や地域の祭り行事に参加する機会をとおして、子供たちは与えられた学習ではなく、自分たちの役割を考え創造して学ぶ活動をしていました。教育は学校だけでなく地域の皆様に支えられていることを実感した研修となりました。高校生による、リズムなぎなた、調理、書道の精度の高いパフォーマンスは圧巻でした。子供たちの持っている底知れぬ可能性やパワーを目の当たりにして、今でも感動がよみがえってきます。

三刀屋高校も文武両道を目指し結構頑張っている。三刀屋高校の良さをもっとアピールする必要があるのではないかと思っていたところ、偶然、高校からの帰宅途中の息子が某テレビ局の「ダーツの旅」で取材されました。それが縁で他局でも男子ソフトボール部の

紹介をすることになりました。一生懸命部活動や勉強に取り組んでいる子供たち、家庭を犠牲にして？子供たちと向き合ってくれる先生、部活動の大会のたびに必ずスクールカラーであるオレンジのジャンパーを着て応援に駆け付けてくだ

「今まで、これから」

3年生保護者 妹尾 好高

学園祭の折、30有余年ぶりに訪れた学び舎は、全く変わっていない所、用途が変わった所、新增築された所など、懐かしさと新鮮さが混在した印象でした。生徒さんの、こちらが動揺してしまうくらいの溼刺とした挨拶に背中を押され、たくさん催し物を楽しませていただきました。記念館で、子どもと同年代の自分の写真を前にした時、星霜の彼方にあつた記憶が鮮やかに蘇り、同時に、半年後には子どもも集合写真1枚を残してここを去って行くのだという感慨に襲われ、暫し足を止めてしまいました。そして、いよいよその

さる恩田校長先生。母校ではありませんが私はこの高校に愛着を感じています。この学校の良さをもっと全国にアピールできるよう今後もPTAの一員として活動していけたらと思います。  
(平成28年度PTA副会長)

時が来ようとしています。

小学3年より書道を始めましたが、小学校高学年になると、先生の熱心な指導と母親の厳しいダメ出しに遭い、落涙することもありました。嫌いになってしまふのはとの予想に反し、「納得いくまで書く、夜を徹しても書く」という考えが生まれ、実践していたのには少々驚かされました。中学に入ると吹奏楽部に入部し、パーカッションを担当しました。家でよく部活動の話が聞かれましたが、表情からその楽しさを窺い知ることができました。優しい近所のみなさんの我慢に助けられ、夜更けまで打撃音を響かせ研鑽を重ねておりました。高校生になった時、ひとつの選択に迫られました。書道において、今の自分の実力を測りたいと思う気持ちと、まだまだ未熟なパーカッションの腕を上げたいと思う気持ちとどちらが勝るか択一の決断でした。果たして、その迷いは兼部という形で解決し今日に至っております。両部の先生や部員のみなさんには多大なご



吹奏楽と兼部しながら書道の全国大会に出場

迷惑をおかけしたことを思います。この場をかりてお礼申し上げます。将来何になりたいか、何を生業としたいのか、まだ臆げな姿ではないと思います。部活動を通じて分かったことは、一人で創るあるいはみんなで創るといった過程の違いはあっても、創作することが好きだということでしょうか。理想を云えば、そういった方向に進んでくれることですが、ライフワークや一生の趣味として楽しめればそれも良いことだと思ってい

## 卒業生の言葉

3年 門脇 宥紀菜

新しい環境で高校生活を送りたいと思い、私は三刀屋高校に進学することを決めました。入学した頃は、当然のことながら、自分のクラスに知り合いがいなかったの

ます。いずれ来る人生最大の決断の時のために、経験してきたことを反芻し、必要なことを継続し、未知なる分野を学習し、親元を離れて暮らす自由な時間を使って、新たな自分真の自分を見つけてほしいものです。

最後になりましたが、3年間ご指導いただき見守りいただきまして先生はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



全国高総文祭出品の工芸作品「ウサギと亀」

文化系と体育系の全国大会にW出場の快挙

で、これからみんなとうまくやっていけるかどうか心配でした。しかし、入学後に行われたフレッシユマンセミナーのおかげでクラスのみんなといるいろいろな面で関わるようになり、みんなとの距離を縮めることができたと思います。クラスの人々と協力して成し遂げたこととして、三高祭のステージ発表の合唱とよさこいがあります。よさこいは振り付けが難しく、なかなか覚えることができませんでしたが、友達が何回も練習に付き合ってもらい上達することができました。友達にはとても感謝しています。本番では、練習の成果を発揮することができ、1位を獲ることができました。そのときはとてもうれしかったです。

2年生のときには研修旅行で東京に行きました。班別自主研修で

は、自分のテーマについての話をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。最終日には、デイズニールランドに行き、友達とさまざまなアトラクションに乗りたり、買い物をしたりして思いっきり楽しむことができました。

高校生活の中で一番充実していたのは、3年生のときです。私は、夏のインターハイ（少林寺拳法）と総文祭（美術工芸部門）に出場しました。少林寺拳法は小学生の頃から習っていて、毎週欠かさず稽古に行っています。高校生になってインターハイに出場することができて嬉しかったです。インターハイでは、全国から各県の代表の拳士が集まっていました。彼らの技や気合など演武のレベルはとても高く、一生懸命やりましたが全国の拳士には遠く及ばず、残念ながら予選を通過することはできませんでした。自己ベストの得点を出すことができたのは、やはりインターハイという全国レベルの大会で周りの拳士からよい刺激をたくさん

3年 柿木 瑛人

3年間の高校生活を振り返ると、楽しい事や苦しい事など沢山の思い出があったと感じますが、まず第一に思い浮かぶのは、何といっ

受けたからだと思います。

一方、総文祭では、まさか自分の作った作品が出品されることになるとは思っていなかったのですが、最初はとても驚きでしたが、毎日部活動でコツコツと作り上げた作品が評価されてとても嬉しかったです。総文祭に出品された他県の人たちの作品はダイナミックなもの、非常に繊細なものなど、すべての作品にさまざまな工夫がされていて本当に感動しました。

今、3年間を振り返ってみると、ひとつひとつの行事や出来事が懐かしく思い出されます。あつという間の3年間でした。私は4月から大学生になります。新しい環境で新たな生活が始まります。不安もありますが、それ以上に楽しみのほうが沢山あり、4月がとても待ち遠しいです。次の目標に向かって勉強をしっかりとやりつつ、今しかできないことにもどんどん挑戦して大学生活を楽しみ、将来は薬剤師となって地域に貢献できればと思っています。

でも部活動の事です。

私はソフトテニス部に所属していました。高校からはじめましたが、部員も多く1年生の頃はボール拾いと、基礎体力をつけるためのダッシュの繰り返しで、皆についていくのがやっとの状態でした。

2年生になると後輩もでき、手本になれるようにと意識しました。上級生である以上、下級生に抜かれまいと、それまで以上に練習に打ち込みました。先輩が引退すると、自分たちが先頭に立たなければならぬと思いつつも、それまで先輩に頼り切っていたため、最初は何をどうして良いか分からず、沢山の人に迷惑をかけていたような気がします。

3年生になると、自分の試合の進め方や長所・短所が自覚できるようになり、3年間の成長を実感できるようになりました。最終的には、三刀屋高校の秘密兵器と呼ばれるようになりましたが、結局秘密のまま幕を降ろしてしまっただけのはやや心残りです。しかし、ここまで成長できたのは、一からテニスを教えてくれた先輩や先生方、互いに切磋琢磨して競い合った友達のお陰だと感じています。

そして、一番忘れてはいけない人がいます。それは家族です。両親のお陰で、私は嫌なことがあっても逃げ出さない気持ちを持つことができ、今の自分があると感じます。現役で競技していた時は、そんなことを考えたことはありませんでしたが、今では強く感じます。そして、部活動を通じて学んだ礼儀やマナー、そして仲間の大切さを忘れず、これからの夢を実現するために、日々努力していきたいと思えます。

左は7月28日、三刀屋文化体育館アスパルでのインターハイボート競技の開会式、柿木さんが司会進行し、生徒会長の小林さんが歓迎のあいさつをしました。また、ステージ下では吹奏楽部が歓迎演奏したほか、4日間の競技期間中は、本校1、2年生の約7割がボランティアスタッフとして大会を支えました。



鳥根県選手による選手宣誓

次に思い浮かぶのは、生徒会活動の事です。生徒会執行部の一員として活動する中で、昨年の夏には「さくらオロチ湖」で開催された全国高等学校総合体育大会ボート競技の、アスパルでの開会式の司会進行も務めさせていただきました。自分と同じ世代のトップアスリートが集う全国大会での大役に戸惑い、緊張しましたが、先生方のご指導のお陰で、何とか本番を終えることが出来ました。こんな貴重な経験をさせていただいたことも思い出であり、私にとって大きな財産となりました。

卒業後は地元の大学で農業について幅広い研究と体験を積み、将来は地元の農業に貢献できる人材となつて戻ってきたいと思えます。

(平成28年度前期生徒会議長)



相棒

「インターハイを通して学んだこと」 3年 小林 昂貴

昨年夏に中国5県で開催されたインターハイ鳥根県開催競技分の「高校生活動推進委員会」の記録集が刊行されました。さくらオロチ湖(尾原ダム湖)ではボート競技が開催され、記録集には雲南地区委員長をつとめた小林昂貴さん(今年度前期生徒会長)の感謝の言葉も寄せられています。本会報への掲載は予定しておりませんでした。ぜひお読みいただきたく、ここに紹介させていただきます。

私は、鳥根県雲南市のさくらおろち湖で行われたボート競技のインターハイを通して、人生の中で滅多に体験できない貴重な経験をする事ができました。ボート競技についての知識も無く、当初自分が高校生活動の代表となる話を頂いたときは少し悩みました。しかし地元でインターハイが開催される滅多に無い機会に、高校生活動の代表に選ばれたことを名譽に感じ、勇気を出して挑戦することにしました。

大会に向けて準備をしていくうちに、私の通う高校には頼れる仲間が溢れていることに気がきました。例えば、のぼり旗の作製には美術部、看板の作製は書道部が、そしてプランターの花の世話にはボランティア委員会が協力してくれました。高校生活動の中心となつたのは執行部でしたが、最終的には校内が一丸となつて、それぞれの特性を



2016中国総体/鳥根県高校生活動推進委員会/活動の記録

この活動に取り組む中で、自分も人として少し成長することができたように思います。そして仲間と一つの目標に向かって準備することを通して、団結力を深めることができ、インターハイに関わることができて本当によかったです。(平成28年度前期生徒会長)

大会期間中の競技や高校生のボランティア活動の様子については、三刀屋高校ホームページの「各種便り」にアップした「ボート新聞」8月発行第3号をあわせてご覧ください。

# 総合学科全国大会 10月を終えて

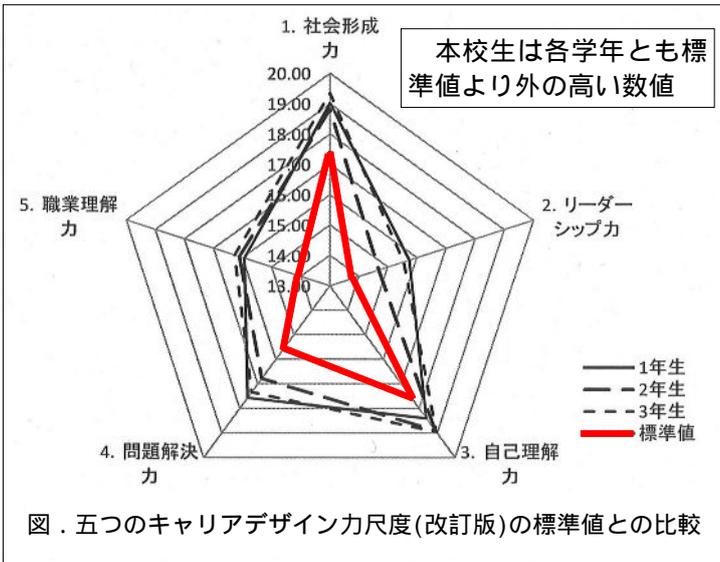
「本校総合学科10年の振り返り」 校長 恩田 佳雄

昨年10月27日、28日の2日間の第21回全国高等学校総合学科教育研究大会については、学校だより「蒼雲」12月発行第113号をご参照ください。

平成16年に普通科を総合学科に改編して以来、様々な調査を行いながら教育内容の充実に務めています。その一つが卒業後5年経った時に高校時代を振り返るアンケートです。「総合学科で身につけた力や経験は卒業後の社会で役に立っているか」という問いに対する記



島根大会実行委員長の恩田佳雄校長が歓迎のあいさつ



述回答として「現場で判断しなければならぬことが多く、高校で学んだ課題解決能力が役立つ」と、「自分の意見を発表する機会が多く、高校時代の経験が役に立っている」「インターンシップで責任感や自分から考えて行動することの大切さを学んだ」などと回答

しています。一方で、高校入学期の総合学科についての理解が低いことや一部の活動の評価が低いことが課題として挙がっています。

昨年5月の全国総合学科高等学校校長協会研究協議会での基調提案の中で紹介のあった大阪府教育委員会作成の「七つのチカラ」や岡山県総合学科高等学校共同研究を参考に、本校でも追手門学院大学三川先生のご指導のもとに、「五つのチカラ」を調査しました。その結果「社会形成力」「リーダーシップ力」「自己理解力」「問題解決力」「職業理解力」のいずれも標準値よりも高い結果が出ましたが、学年が上がるにつれて低くなるチカラもあり、改善を図る必要があることがわかりました(上図)。

三刀屋高校では普通科から総合学科への改編後、普通科の内容に加えてキャリア教育を推進してきました。1年次4月には「仕事調べ」を始めますが、従来、どんな資格が必要かをともに「仕事調べ」を進め、その結果、資格が取れる大学・短大・専門学校志望者が増えました。資格を必要としな職業もたくさん

ある中、また、今ある職業の半分は自動化され人工知能にとって代わるといふ予想もある中、資格も大事だが、幅広い知識をもち、課題発見・解決能力が必要だと考え、今年度から「仕事調べ」を学問をもとに行うように変更したところです。また、約90%の生徒が進学する本校の実情を踏まえ、2年前から「アカデミックインターンシップ」を導入しました。1・2年次に全員が大学や短大、専門学校の授業、これは高校生向けの授業ではなく、実際に行われている授業に参加させてもらうプログラムを作り、「科目選択」や「進路選択」に役立たせています。さらに、一年次に行うインターンシップは就労体験が主体でしたが、中学校でも行っており、ステップアップが課題でした。そこで、地域の魅力や課題に焦点を当て、地域への理解を深め、課題を発見し、解決方法を探る取組みとして、「地域産業研究」を開始し、その実地調査としてインターンシップを位置づけ、2・3年次の「課題研究」へと繋げていきます。

総合学科で進められてきた「課題研究」は、島根県内の普通高校や専門高校でも総合的な学習の時間で取り入れられ、総合学科教育の成果が確実に広がっていると感じています。最近の「課題研究」

のテーマの一つに、地域の協力を得ながら地域の課題や魅力についての調査・研究する取組みがあります。これは高校卒業時に就職・進学いずれであれ、地元のことを知って高校を卒業する契機となっており、将来、地域を担う人づくりにつながると考えています。

昨年10月末に鳥根県で開催した総合学科全国大会のテーマは「新たなステージへ」としました。この20年余り総合学科は数値で測り

### 「三刀屋高校で身につけるべき力とは」

進路指導部長 駿馬敦史

私は今年度も多くの3年生と模擬面接を実施しました。就職・進学試験ともに面接を実施するところも多く、8月から2月にかけて40人を超える生徒に志望理由や自己PRなどを質問してきました。

その質問の中に、「高校時代に身につけた力は何のようなものですか?」というものがありました。生徒のみなさんからは「部活で得た忍耐力」や、「友人関係の中で培ってきた信じる力」など実感のこもった回答が多くありました。3年間の高校生活を通じて得たものについて自信を持って答える姿に頼もしさを感じました。しかし、それと同時に今後大きく変わっていく社会の中で三刀屋高校生が身

にくい思考力、判断力、表現力、問題発見・解決能力やコミュニケーション能力等、またキャリア教育がめざす「基礎的・汎用的能力」の育成に努めてきましたが、その成果の数値化や可視化、そして、それを礎に総合学科教育のさらなる充実につなげることが総合学科創設30年に向けた新たなステージの重要な場面となり、新しい学習指導要領が目指す姿と重なるものだと考えています。

グローバル化の進展とともに進む我が国の国際的存在感の低下  
IT化やAIの進歩に伴う職業の変化  
50年後半数に減る生産年齢人口と高まる65歳以上の割合

独立行政法人大学入試センター長である山本廣基氏が12月雲南市に來られ、「高大接続のめざすもの」という演題で講演をされました。そこで説明された高大接続改革の背景として次の事を挙げられました。

そして、将来を待たず現状として起きているのが受験圧力の低下と学習量の低下だそうです。第5回学習基本調査(ベネッセ教育総研)によると、高校生の成績が中上位層には学習時間の改善が見られるが、下位層は低い水準で推移しています。この三刀屋高校でも平日60分未満という生徒がかなり多くいます。そして、その学習時間の少なさは日米の大学1年生の勉強時間比較でも顕著になっています。

しかも、米中韓の生徒に比べ、自分価値ある人間だ」という自尊心を持っていく割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い実態があるようです。(高校生の生活意識と留学に関する調査報告 日本青少年研究所)

このような現状を変えるためにこれから何年かけて  
高等学校教育改革  
大学入学者選抜改革  
大学教育改革

「表現力」の十分な評価とともに「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を志望理由書や面接など多様な評価方法を導入するということが改革の大きな柱となっています。実際今後国公立大学では現在15%のAO・推薦入試の定員を30%にあげる方向で動いています。つまり、確かな学力とともに多様な資質を持った学生を受け入れようとしているのです。

このような状況がある中、三刀屋高校を振り返りますと1年次の地域産業研究や実習、2年次の東京研修旅行や課題研究・アカデミックインターシップをはじめとして、主体性を持って多様な人と関わりながら学ぶカリキュラムが豊富に設定されています。しかも、キャリア教育推進室を中心に毎年検討され、地域や市役所の人々の協力も得ながら計画的に実施されています。知識や思考力を鍛えることは当然として、この3つ目の要素も身につけられるのは総合学科である本校の強みだと思います。

今後、卒業していく3年生のみなさん、そしてこれからも三刀屋高校で学んでいくみなさんには学力の3要素の力をいかして、ぜひ「未来の創り手となるために必要な知識や力」をしっかりと身につけ、次のステージへ踏み出してもらいたいと思います。

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の十分な評価とともに「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を志望理由書や面接など多様な評価方法を導入するということが改革の大きな柱となっています。実際今後国公立大学では現在15%のAO・推薦入試の定員を30%にあげる方向で動いています。つまり、確かな学力とともに多様な資質を持った学生を受け入れようとしているのです。

贈る言葉に代えて

『雑感3』

3年学年主任 石橋 一美

本校のキャリア教育におけるビッグイベントと言えば、「地域産業研究実習（課題研究＋職場体験）」と、「研修旅行（課題研究）」ですが、この他にもいくつかの取り組みをしています。その一つに、「ライフプラン作成」というのがあります。1年生の3学期に、「10年後に になっている自分」を想定し、そうなっているためには今からどんなことに取り組んでいくべきかを考え、レポートにまとめ

るものです。なりたいたいのものがはっきりしている人はすんなりと書き始められますが、そうでない人は、かなり苦労して、絞り出すように書いていたものでした。

実際に「ライフプラン」を作成するとき、「進路をきちんと考えよう！」というのももちろんあります。それだけがねらいではないと考えています。「ライフプラン」を想定するための方法論は、もっと近い未来のためにでも使えるものです。例えば、一年後の、一ヶ月後の自分を想定して、そこにたどり着くのにどうするかを考える習慣をつけられれば、その取り組み自体が「計画を立てて実行する」

ことにつながるわけです。その積み重ねの上に3年後、10年後があるといえます。

また、この方法論は、「自分個人が将来どうするか」のためだけではなく、なにがしかのプロジェクトにおいても役立つと考えます。

例えば将来属するであろう上級学校での研究や、自分が関係する部署でのプレゼンテーションなど、さまざまな現場で、「未来を想定してどう取り組むか」を考えていくことは多々生じます。そのときに、「そういう高校の時こんなことをやったな」程度の記憶でも、あるとないとでは大きな違いです。本校で行うキャリア教育というのは、高校卒業後、社会でいろいろなことを考え表現していくための方法を学ぶ授業だと考えています。

3年間学年主任としてこの会報に寄稿しましたが、結局一番印象に残ったのは三刀屋高校でのキャリア教育です。普通に取組めば、社会で役立つ内容がたくさんあります。卒業した後に「産社ファイル」や「総字ファイル」が役に立ったと思ってくれたら幸いです。

3年担任の「贈る言葉」を生徒会誌に掲載しております。あわせてお読みください。

編集後記

今年度もPTA会報の発行を年2回と計画しておりましたが、今号のみの発行になりましたことをまずはお詫び申し上げます。

従来の会報は生徒・保護者・教員に寄稿を依頼し、文章のみの紙面構成でした。それぞれの手記には熱い思いが込められ、読み応えのあるものでしたが、今後のPTA活動の発展に一層寄与する会報をと考え、年度途中で紙面の刷新を計画しました。ただ、写真も多く盛り込むことよって印刷経費が膨らんだ結果、年度末一回の発行となつてしまいました。このような紙面構成で来年度も発行するならば、モノクロかカラーか、年1回か2回かも検討いただいた上で、新年度に予算措置を講じる必要があります。会員皆様のご意見、ご感想をお寄せいただきたいと思います。

紙面刷新は一つのチャレンジであり、会報による情報提供がPTA活動そのものを見直しや改善、一層の充実に繋がれば幸いです。

最後になりましたが、年度末ご多忙の折にご寄稿いただきました皆様、誠に厚く御礼申し上げます。

(事務局記)



総合学科11期生の今後の活躍を期待します